

眼に優しい立体ディスプレイの研究（平成18～19年度）

予算適正執行の評価	43点(50点満点)	研究実効性の評価	42点(50点満点)
-----------	------------	----------	------------

(コメント)

(評価者1) 研究計画に即した研究の遂行という面では、まったく問題ないと認められる。ただし、「研究期間終了後6ヶ月以内に、研究プロジェクトの成果を記した研究報告書を協会ホームページで公開するとともに、言論責任保証協会会員およびメディア情報検証学術研究会有料参加者全員に研究費獲得時の申請書を配布する。」との説明に対しては、協会ホームページで公開が未対応であるなど、課題も残っている。また、実効性の評価としては、何を以て「実効性」が満たされているかを、研究者と評価者との間で共通認識として持つ必要もあり、この点についても今後の課題と思われる。

(評価者2)

「眼に優しい立体ディスプレイの研究」に関する成果報告と実際の技術を拝見し、大変な作業量をこなして、難しい課題にとりかかってきたことがわかり、予算の執行に関して適性であると判断した。また研究の実効性も期待できると思えるため、今回の評点とした。(専門家の評価であれば予算適正執行と研究実効性ととも異なる点数であったかもしれないが、専門外のため今回の評点とさせてもらった。)

(評価者3)

- ・ 輻輳調節矛盾を解消する方法として、2方式による研究を、計画どおり実施したこと。
- ・ 1方式については、その後の研究につなげることができたことを評価する。
- ・ 予算規模については3600千円であるが、民間人の感覚で適正かどうかを判断することは難しい。

民間企業において、この予算は数カ月分の人件費にも満たない。そのため評価者には成果が極めて大きいと考えてしまう。

(システムエンジニア業界では80～120万/月程度が相場)